



神戸山手グローバル中学校高等学校

世界とつながり、未来を切り拓く
グローバル教育

①グローバル選抜コースは、ネイティブとの担任二人制で、日常のコミュニケーションツールは英語です②今年度より通年で数学科の英語イマージョン授業を導入③高校2年生フィリピン・セブ語学研修④学園祭(文化祭・体育大会)は一番盛り上がるイベントです⑤文部科学省EDU-Port応援プロジェクトに参画



PICK-UP

同時通訳の研究開発に 取り組み新たな学びを創出

教育DXを活用した学びの高度化を中核的課題として位置づけ、文部科学省の「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」を基盤に据えた実践を展開しています。「EDU-Portニッポン」や「高度外国人材の教育環境整備に係る調査研究事業」との接続も図りつつ、国内外を視野に入れた教育モデルの構築を進めています。さらに、これらの実践を理論的に裏付けるため、科学研究費助成事業を活用して高大連携の枠組みのなかで同時通訳に関する研究開発にも取り組んでいます。言語運用能力の高度化とテクノロジーの融合を図ることで、学習者の思考と言語を媒介とした新たな学びの創出をめざしています。これらの取り組みは、個別最適な学びと協働的な学びを往還させつつ、カリキュラム・マネジメントの高度化を通じて学校全体の教育力を再構築する試みであり、教育DX時代における持続可能な学校改革モデルの提示を意図するものです。なお、2026年度は新たに「文部科学省令和8年度国際交流・留学プログラム構築推進事業」に採択されました。

本校は2025年、創立101周年を機に、中高のグローバル選抜探究コースと高校の選抜コースを共学にし「神戸山手グローバル中学校高等学校」として新たなスタートを切りました。歴史と伝統を継承しながら新たな100年に向けた改革を推進し、世界基準でグローバルに活躍できる人材を育てることを目指しています。

本校の英語教育の基本は「英語『を』学ぶ」ではなく「英語『で』学ぶ」です。英語を日常のコミュニケーションツールとして、生徒たちと日々、魂を

「学校の中に小さな地球をつくる」

教員たちはファシリテーターとして、生徒たちと日々、魂を

位置付け、情報・数学・理科など多くの授業はネイティブ教員によるイマージョン教育を実施。実践的な英語習得を最重要視しています。

異なるルーツや文化を持つダイバーシティに対応した充実の生活・学習環境が整備されているのも本校が選ばれる理由です。高校では、生徒の約38%が世界からやってきた外国籍の生徒です。コンシエルジュが常駐し、管理栄養士監修の食事付き学生専用マンションを完備しており、安心安全な生活環境を提供しています。お互いに文化の違いを尊重し合い、友情を育み、国際人としての成長をサポートしています。

私は学校の中に小さな地球をつくりたい。一言でいえばそれは英語と多文化共生理解をベースとした「未来の学校」です。日本の既存の枠組みに囚われることなく、世界的な広い視野で物事を見ることのできる「地球人」を育てていきます。



平井 正朗
校長

